

平成29年度 第2回鎌ヶ谷市学校給食センター運営委員会会議録

開催日時 平成30年1月25日(木)午後2時30分～

開催場所 学校給食センター2階多目的会議室

出席者 (1) 委員：樋口敏之委員長、石黒茂副委員長、吉田留美子委員、  
後関俊一委員、葛山厚志委員、山口敦子委員、  
横島陽子委員、引田満委員、高橋正彰委員、  
豊島美千子委員、山口夏子委員  
(2) 事務局：仲田政樹給食管理室長、米井幸男主査、  
後野真弥主査、石関直人栄養職員

欠席者 横井 隆子委員

傍聴者 なし

- 1 委嘱状の交付(任期：平成29年10月1日～平成31年9月30日)
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長・副委員長の選任  
推薦により、委員長に樋口委員、副委員長に石黒委員が決定
- 4 議 題  
会議録署名人の選出について  
会議録署名人を豊島美千子委員、山口夏子委員を指名(名簿順)

(1) 平成29年度学校給食センターの運営について

事務局より資料に沿って説明

<質疑等>

山口(敦)委員：鎌産鎌消献立の時は、鎌ヶ谷産野菜について、子どもたちに話  
をしている。9月の梨の時は、複数回出してもらえないか。

事務局：出来れば出したいと考えているが、調理過程の問題で難しいため、1  
回となっている。梨は、皮を手作業で剥いて6分の1カットをしている。  
小学校の提供数は、約6000人で、1000個の梨を剥かなくてはな  
らず、時間と人員が割かれる。そのため、献立を手がかからないものと  
組み合わせ、さらに中学校の体育祭の振替休日の時に合わせて出すよ  
うにしている。物理的に難しい点を、ご了承いただきたい。

(2) 平成29年度第2四半期学校給食センターPFI事業モニタリングについて

事務局より資料に沿って説明

<質疑等>

引田委員 : 9月21日に小学校の食材であるこんにゃくを、中学校の南瓜のみそ汁に誤って投入した件について、こんにゃくは、アレルギーは少ないとは思いますが、病院でいうと点滴の薬を間違えたのと同じで、小さいこととは言えないと考える。

事務局 : ご指摘のとおり、重大なミスと認識している。その後は、食材が混ざらないように、調理工程を工夫し対応している。

豊島委員 : 9月21日は、どのように給食を提供したのか。

事務局 : 学校へは食材の投入間違いと、併せてこんにゃくのアレルギーについて表示義務・推奨27品目に該当がない旨を急ぎ伝えた。その上で、中学校にはこんにゃく入りのみそ汁を提供し、小学校では、こんにゃく無しの献立を提供した。

(3) 平成30年度の学校給食献立年間計画について

事務局より資料に沿って説明

<質疑等> 質疑無し

(4) 食物アレルギー対応について

事務局より資料に沿って説明

<質疑等>

引田委員 : 小麦の除去食は代替になるのか。

事務局 : 代替ではない。検討課題と認識している。

事務局 : 表示義務7品目のアレルギー除去の食品も多くなってきており、活用していきたいと考えている。

事務局 : 小麦のアレルギーを持つ子の醤油の反応について引田先生にお聞きしたい。

引田委員 : 長く見ているが、醤油で反応した子はいない。製造過程で小麦の成分が壊れているためと考えられる。

樋口委員長 : 食物アレルギー対応は、学校などみんなで気をつけていかななくてはならない。突然発症してしまう子もいるため、難しい問題である。

## (5) その他 給食アンケート結果について

事務局より資料に沿って説明

＜質疑等＞

- 葛山委員 : 中学校3年生の子どもが、3年前は味が薄い、おいしくないと話をしてきた。最近は、味が薄いけど美味しくなってきたと話している。しかし、周りの保護者などから、味の改善を求める意見が多くある。
- 山口(夏)委員 : 味が薄いということだが、1月の献立表を見ると塩分が基準よりも多い。健康のためにも、味を濃くすればいいという問題ではないと考える。学校訪問などで食育を実施しているか。必要性を伝えていくことが大切と考える。美味しいと感じているのであれば、その味に慣れてきたのではないかと考える。
- 事務局 : 学校訪問は、給食の時間に行っており、その日の献立について話すことが多い。塩分についての食育は行っていないが、必要性を感じている。
- 豊島委員 : 夏場など、汗を多くかく時期では、給食の塩分は変わるのか。
- 事務局 : 栄養基準としては変わらないが、味付けの段階で、外の気温を参考にして塩分を足すこともある。
- 豊島委員 : 給食は太るからと言って食べない子も多いと聞く。この食材を食べると肌にいいなど、子どもたちに影響力のある人に伝えてもらうことで、給食に興味を持ってもらえるのではないかと考える。
- 事務局 : どうやって興味をもってもらえるかというのは、大切な視点と考える。今年度行った「鎌スタ☆20周年記念給食」は、プロ野球選手の身体づくりの視点からも興味を持ってもらえる工夫をした。これを食べるとこの部分にいいというようなことは、ちょっとした効果でも大きく言ってしまい、過大評価となることもある。栄養素主義となり、サプリメントを取ればいいという考え方に結びつくこともある。食事はトータルで考えるものだと考えている。
- 豊島委員 : 給食は魅力的なものだと思うので、是非その魅力を伝えて欲しい。
- 事務局 : 給食の魅力を伝えられていないので、伝え方を考えていきたい。

## 3 閉 会

【会議終了】

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成30年3月7日

署名人 豊島 美千子

署名人 山口 夏子